

# 各小学校の現状

区分	中山小学校	伊草小学校	三保谷小学校	出丸小学校	八ツ保小学校	小見野小学校
平成27年度 新入学児童数	52人 (男29人、女23人)	48人 (男17人、女31人)	7人 (男4人、女3人)	13人 (男7人、女6人)	5人 (男5人、女0人)	19人 (男9人、女10人)
複式学級になる可能性  ※ 複式学級とは 小学校の場合、2つの学年の人数が16人以下（1年生を含む場合は8人以下）になると、2つの学年を1つのクラスに編成するようになる。（これを「複式学級」という。）	当面の間（平成33年度までの予測）では、複式学級になる可能性はありません。	当面の間（平成33年度までの予測）では、複式学級になる可能性はありません。	平成31年度の予測では、2年生、3年生が16人となり、複式学級となる可能性があります。  2年生 6人（男5人、女1人） 3年生 10人（男6人、女4人）	平成33年度の予測では、2年生、3年生が14人となり、複式学級となる可能性があります。  2年生 5人（男4人、女1人） 3年生 9人（男6人、女3人）	平成27年度、3年生、4年生が18人なので、2名転出すると、複式学級となる可能性があります。	平成32年度の予測では、2年生、3年生が15人となり、複式学級となる可能性があります。  2年生 9人（男4人、女5人） 3年生 6人（男1人、女5人）

## 小規模校の課題・問題点

### 学習活動面から

- 団体競技、班・グループ活動に制約が生じる。
- 多様な見方・考え方が育ちにくい。
- 成績が序列化しやすく、学力向上に結びつかないおそれがある。

### 生活面から

- 男女間の数にアンバランスが生じやすい。
- 人間関係が固定化し、順位付けされたり、関係がこじれると修復が難しい。
- 人間関係づくりや忍耐力の育成に問題がある。
- 切磋琢磨する機会が少ない。

### 保護者などの立場から

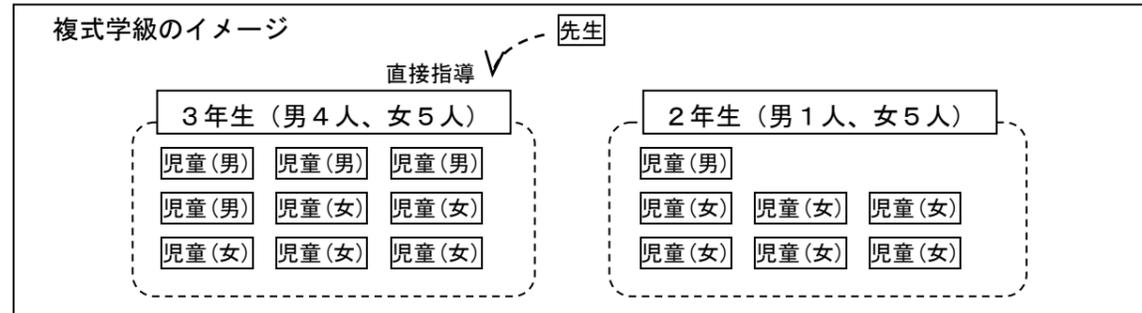
- ・ 旅行など校外活動、卒業アルバムの製作などで個人負担が多くなる。
- ・ PTA活動で、一人あたりの役割分担が多くなり、保護者の負担感が増す。

### 学校運営面から

- 教員が少ないため、緊急時に十分な対応がとれない恐れがある。
- 安心安全な登下校を考えた場合、集団が組みにくく、地域や保護者に依存する部分が大きくなる。
- 教職員が少ないため、学校行事などで十分な時間・場所を確保することが難しい。

### 複式学級

原則として、1人の先生が2つの学年の児童を教えることとなり、難しい学校運営を強いられる。



例えば、先生が3年生を指導している間、2年生は、自主学习となることもある。